

# 短期講座

## 90. 中国の歴史に学ぶ講座

開催日:月曜日 時間:14:00~16:00 会場:大阪歴史博物館 講師 渡辺 健哉

講義の目的	中国とはいかなる存在なのでしょう。2000年代以降、経済発展を遂げた中国は、様々な形で世界に影響を及ぼしています。こうした中国を「正しく」理解することは今を生きる人々にとって重要な課題といえるでしょう。本講義では、中国の歴史を学びつつ、そこから抽出される中国の本質に迫ります。
-------	--

回	月	日	テーマ	概要
1	9	30	昭和天皇と中国史	【プロローグ】 講義の前提として、昭和天皇(1901-1989)が中国の歴史をどのように学んだのか、また理解したのか。毎年正月に宮中で行われる儀式＝「講書始」等を材料に考える。
2	10	7	秦の始皇帝	【皇帝政治の始まり】 春秋、戦国時代を経て、紀元前221年に秦の始皇帝が中華世界を初めて統一した。始皇帝は内政を整備するとともに、北方の遊牧民と対峙するために長大な万里の長城を建設した。この時代の統治の特徴を探る。
3	10	21	三国時代の皇帝	【史実としての『三国志』】 秦の後、漢王朝の統治が約400年続いた。しかし、次第に国力が衰退し、黄巾の乱をきっかけに滅亡する。この後、魏・蜀・呉の三国鼎立時代を迎える。この間の状況をドラマチックに記したのが『三国志演義』である。本講では、読み物ではなく、史実に基づき、この時代を概観する。
4	10	28	北宋の太祖	【専制君主制の始まり】 唐王朝の次に中華世界を統一したのが宋王朝の趙匡胤である。太祖はそれまでの貴族制から転換を図り、皇帝による君主独裁制の確立を目指した。ここで確立された制度がこの後の中華世界の統治体制の基礎となる。
5	11	11	元のフビライ	【陸と海をつないだ時代】 宋朝が江南を領有していた時期、北方のモンゴル高原を起点にチンギス・ハンとその後継者がユーラシア全域を統治する。5代目のフビライ・ハンは中華世界を統治し、都を大都(現在の北京)に定める。この時代は、陸路による東西交流に加えて、東南アジア～西アジアへの海上交易も盛んになった。
6	11	18	明の永楽帝	【グローバルな広がり】 元を倒した明の建国者が太祖朱元璋である。太祖は南京を都とし、科挙を復活し、中華世界の回復を目指した。5代目の永楽帝は北京に都を移し、北辺防衛を重視する。対外政策に積極的に取り組み、鄭和に大艦隊を率いさせ、インド洋を経てアフリカ東海岸に派遣した。
7	12	2	清の乾隆帝	【現代中国の領域】 中国東北部で勢力を保っていた女真族は明朝が崩壊した後に北京に進出し、清朝を樹立する。康熙帝・雍正帝・乾隆帝の時代に最盛期を迎え、とりわけ乾隆帝の時代には現在の中国と同様の版図を領有する。
8	12	9	溥儀(ラストエンペラー)の時代	18世紀中頃、当時「世界の工場」として名を馳せたにからイギリスがアジアに進出してきた。この間に勃発したアヘン戦争により、体制の変革が強く求められるようになった。しかし、保守派の巻き返しもあり、その変革は容易には進まず、混乱のまま、最後の「皇帝」溥儀が1909年に即位する。